

# 地場産業のブランド力向上に向けた取組について

## (1) 地場産業

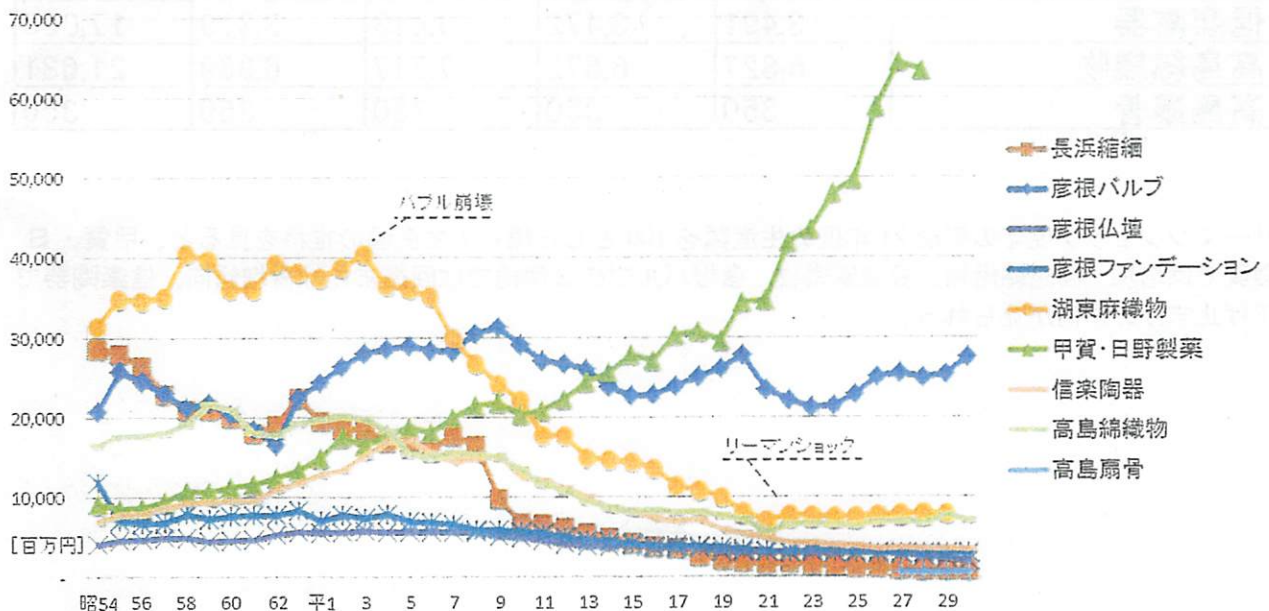
### 1. 滋賀の地場産業

地場産業は、地域の歴史、風土など地域資源を反映し、地域経済の基盤となっている産業であり、滋賀県では次の表に示す9つの産地が形成されている。

産地名	地域	産品	組合名
1 長浜縮緬	長浜市	ちりめん、つむぎ、ピロード	浜縮緬工業協同組合
2 彦根バルブ	彦根市、東近江市、米原市、愛荘町、多賀町、日野町 他	水道用弁、産業用弁、船用弁	滋賀バルブ協同組合
3 彦根仏壇	彦根市、米原市、愛荘町 他	彦根仏壇(産地奨励品、伝統工芸品)、仏具	彦根仏壇事業協同組合
4 彦根ファンデーション	彦根市、東近江市、甲良町、多賀町、豊郷町	ブラジャー、ガードル、ショーツ、ボディスーツ、キャミソール、カットソー、スポーツウェア	ひこね繊維協同組合
5 湖東麻織物	東近江市、愛荘町 他	服地、不織布・芯地、縫製、染色整理加工、原糸販売	湖東繊維工業協同組合 滋賀県麻織物工業協同組合
6 甲賀・日野製薬	甲賀市、日野町 他	医療用医薬品、一般用医薬品、配置用医薬品	滋賀県製薬工業協同組合
7 信楽陶器	甲賀市	レンガタイル等建材類、庭園用品類、食卓用品類、花器類、植木鉢類	信楽陶器工業協同組合 信楽陶器卸商業協同組合
8 高島綿織物	高島市	綿クレープ、厚織(ゴム資材、帆布、その他資材)	高島織物工業協同組合
9 高島扇骨	高島市	扇骨、扇子	滋賀県扇子工業協同組合



### 地場産業9産地の生産額の推移



バブル崩壊後、多くの産地では生産額の減少が続き、平成21年以降は減少傾向が緩やかとなるが、生産額は最盛期の1/3～1/15まで落ち込んでいる地場産業もある。その一方で、社会環境や生活様式の変化に対応し、新たな事業展開により成長を見せている産地もある。

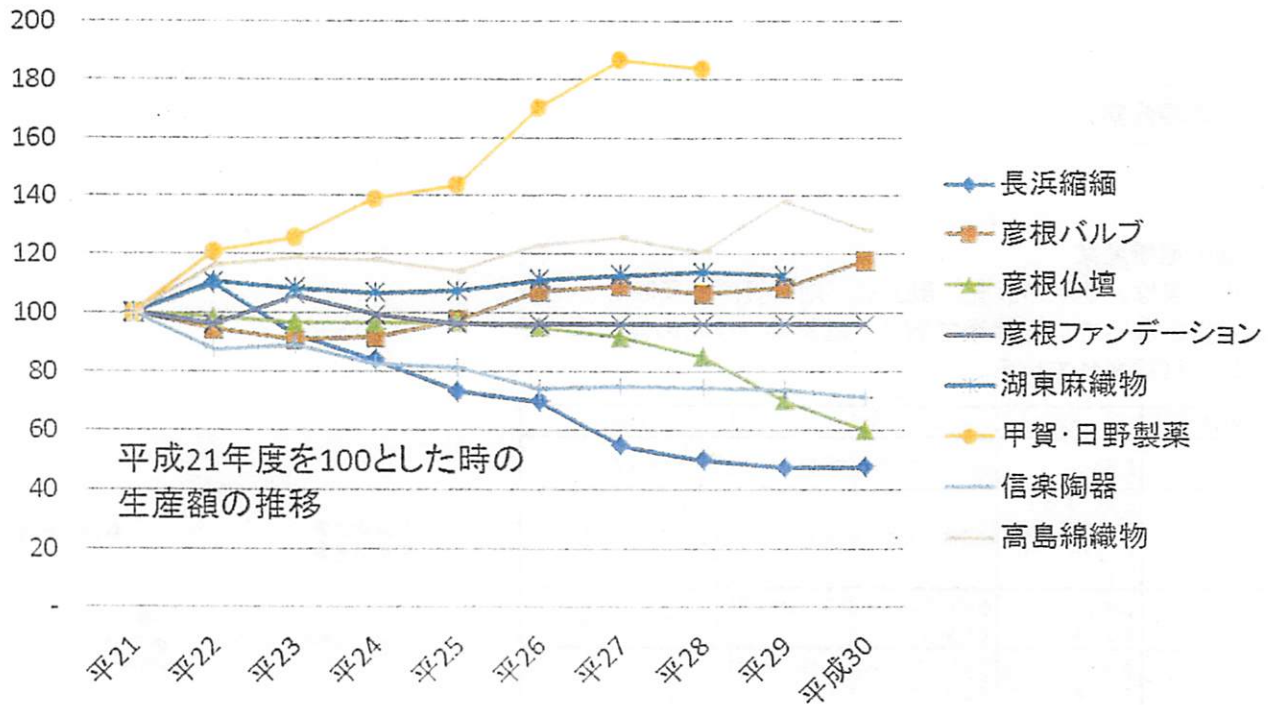


表 各地場産地の生産額の数値

単位:百万円

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	ピーク時
長浜縮緬(単位:千反)	32	28.9	26.8	28.7	818
彦根パルプ	25,524	24,924	25,377	27,541	31,287
彦根仏壇	2,750	2,550	2,100	1,800	5,660
彦根ファンデーション	2,900	2,900	2,900	2,900	11,800
湖東麻織物	7,824	7,896	7,816	-	40,432
甲賀・日野製薬	64,485	63,391	-	-	49,636
信楽陶器	3,491	3,472	3,443	3,319	17,085
高島綿織物	6,827	6,572	7,517	6,969	21,631
高島扇骨	350	350	350	350	350

リーマンショック翌年の平成21年度の生産額を100とした場合の生産額の推移を見ると、甲賀・日野製薬では増加、高島綿織物、湖東麻織物、彦根パルプの3産地では回復または微増傾向、信楽陶器では下げ止まりの傾向が見られる。

## 現状と課題

地場産業の多くは、人口減少やライフスタイルの変化に伴う需要の縮小、海外製品との価格競争、増税による影響等、厳しい市場環境、経営環境にある。このような状況に対応して、さらに打開するためには新たな市場を見据えた商品開発や販路開拓等への取組が必要とされている。また、地場産業事業者等の多くが小規模事業者であるため、新たな取組に必要なノウハウやネットワークを有しておらず、効果的な取組を自ら実施することが困難である場合が多いのが現状である。

産地名	各産地の現状と課題
長浜縮緬	和装需要の縮小、シルク素材の需要減少による生産量は低迷している。ここ数年は低位を維持しているが、依然、厳しい状況である。
彦根バルブ	原材料の高騰などにより調達部品の価格が上昇。産業用弁は、首都圏を中心とした再開発の動きや一般企業の業績好転により、工事発注増に好影響。
彦根仏壇	大型金仏壇の需要が低迷。曳山ミニチュア製作や甲冑製作などにより技術力のPRを図るとともに、そのブランドの周知にも取り組んでいる。
彦根 ファンデーション	加工賃はやや上昇傾向。受注量は横ばい傾向。為替変動の影響により原材料の仕入れ価格が不安定であるために、利益率も不安定である。
湖東麻織物	国内回帰の風潮もあり、産地ショップやイベント等で <u>地域団体商標*</u> である「近江の麻」「近江ちぢみ」の一般消費者への周知を図っている。また、海外展開の成果として、ビッグメゾン進出への一歩を踏み出している。
甲賀・日野製薬	一般用医薬品については、薬局・薬店向けは従来からの個店薬局・薬店での販売が低迷している。その販路をドラッグストアに求めているが、厳しい価格競争を強いられている。配置用医薬品（置き薬）については、販売業者の高齢化、後継者不足等により、市場規模が低迷している。一般用医薬品製造の一部の企業は、相手先ブランドの医薬品を製造するOEM生産で業績を上げている。
信楽陶器	低迷から抜け出せない景況が続いている。インテリア・エクステリア製品や植木鉢類など一部の個性追求型の製品が少し回復の基調を見せている。
高島綿織物	生産額はわずかに増加傾向を示している。これは非資材厚地織物やタイヤコード等の品種が影響している。一方、全体的には単価の下落などにより厳しい状況である。また、海外展開など、新規需要の開拓を模索している企業も出てきている。 <u>地域団体商標*</u> である「高島ちぢみ」などのPRも精力的に行っている。
高島扇骨	中国製品の普及により厳しい状況が続いている。引き続き需要の低迷が予想される。「近江扇子」「高島扇子」のブランド化と新たな販路の開拓への取り組みを行っている。

### \* : 「地域団体商標」について (平成 18 年 (2006 年) ~)

県内では地場産業に関係するものとして、「彦根仏壇」、「高島ちぢみ」、「近江ちぢみ」、「近江の麻」、「信楽焼」が各組合から登録されている。その他にも「近江牛」、「琵琶湖産鮎」、「甲賀のお茶」、「モリヤマメロン」、「草津メロン」、「雄琴温泉」など、11件が登録されている。

- 目的 : 地域団体商標制度は平成 18 年に導入され、こうした「地域ブランド」を商標権として保護することで、事業者の信用の維持、および地域経済を活性化することを目的に設けられた。組合などが取得可能。
- 商標の構成 : 地域の名前 + 商品の普通名称 (この組合せでの文字商標は、「全国的に周知」となっていないと取得できないが、地域団体商標制度ではこの要件が緩和される)
- メリット : 他者への権利行使 (攻撃・防御の両面)、信用・訴求力の増大など差別効果、ブランドへの自負の形成、など



## 2. 具体の取組結果および成果事例と今後の取組

基本指針に基づき、平成30年度に実施した施策にかかる具体の成果事例などを紹介する。

### 【各地場産地の取組（滋賀の地域産業振興総合支援事業）】

#### ① 長浜縮緬（浜縮緬工業協同組合）

##### 【販路開拓】

- ・生地求評展示会（京都丸池藤井）に参加し、2日間で228名のバイヤーなどが来場。
- ・JFW（JAPAN FASHION WEEK） JAPAN CREATION 2019（東京）へ参加。来場者200名。

##### 【新商品開発】

- ・自動意匠捺糸機を用いた新しい生地の研究・開発および具体的な商品の提案。捺糸機を用いて6点の試作を行い、上記の展示会へ出品した。



求評会で日傘、ベスト等の試作品を展示

#### ② 彦根バルブ（滋賀バルブ協同組合）

##### 【販路開拓】

（海外）

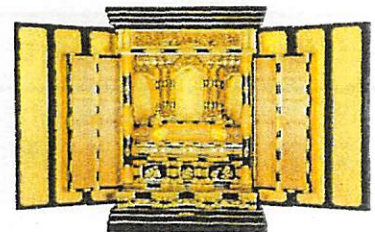
- ・タイ国での市場開拓及びタイ市場視察  
○JETRO 現地担当者からの現地情報の収集および現地工場2社を視察
- ・平成30年度は生産高275億41百万円（8.5%増）、輸出高7億92百万円（44%増）、1社が輸出開始



#### ③ 彦根仏壇（彦根仏壇事業協同組合）

##### 【販路開拓】

- ・3つの国内展示会（①全国仏壇仏具総合見本市、②エンディング産業展、③東京インターナショナル・ギフト・ショー）への出展を補助した。これらの展示会において、新たに5件の取引先を開拓することができた。また、赤備の甲冑レプリカ（150万、円）は累計で10体売り上げた（H29で5体、H30で5体）。



##### 【後継者の育成】

- ・4つのコースで16名の受講であった。

##### 【新商品の開発】

- ・新型仏壇・仏具の試作を2点おこなった。（スタンド型デジタルフォト遺影・写真立て。図を参照）





東京インターナショナル・ギフト・ショー  
展示会の様子(右図試作品および甲冑レプリカ  
リカを出品し、ブランド力向上を図った)



赤備の甲冑レプリカ(組合HPより)



試作を行った2点(スタンド型デジタルフォト遺影・  
写真立て)



赤備の甲冑レプリカの作製風景  
(組合HPより)

#### ④ 湖東麻織物(湖東繊維工業協同組合、滋賀県麻織物工業協同組合)

【販路開拓】(湖東繊維工業協同組合)

(海外)

○展示会 ミラノウニカ展(イタリア)

世界各国のバイヤーが集まるミラノウニカ展において三年連続で出展し、固定客もできてきた。約70社のブースへの来場があり、見本のピックアップ点数は各社平均約280点、平均2社へサンプル生地を無償で送付し、商談中である。着実に海外でブランド・認知度向上につながっていると考えられる。



【販路開拓】(滋賀県麻織物工業協同組合)

(海外)

フランスおよび台湾での海外展開事業

○フランス maison wa (メゾン・和) で 委託販売を行い、新製品の提案など9点を売り上げた。

○テキスタイル会社の一社と交渉 コストダウンした生地とサンプル製品を提供し、現在商談継続中である。

○ビッグメゾンである服飾メーカーと商談中である。

○台湾においても一社と生地とサンプル製品の展示し、商談中である。

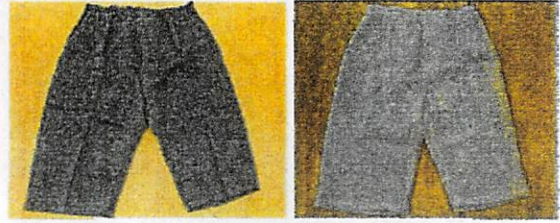


台湾での展示会(商談風景)



(国内)

○和装小物の新商品を開発し、国内展示会（工芸品展 福岡、素材展 東京）へ出展することで「近江上布」、「近江ちぢみ」、「近江の麻」などの地域ブランドの認知度向上を図った。



作製した新商品の一例  
(ステテコ)

【後継者育成】

近江上布及び希少織機シャトル織機の後継者育成事業

○現在9名が育成事業をとおして後継者を目指している。

### ⑤ 甲賀・日野製薬（滋賀県製薬工業協同組合）

【販路開拓】

(国内)

「滋賀のくすり与健康フェア2018」開催による「滋賀のくすり」広報・普及啓発事業

○地元における地場産業としての認知度を向上させるために、県内で薬フェアを開催（10月、アル・プラザ水口）。また、置き薬の利用を促進するために啓発活動も併せて行い、知名度向上を目指した。（来場：3,100名。）



県内での知名度向上に向けた活動（薬フェア）

### ⑥ 信楽陶器（信楽陶器工業協同組合、信楽陶器卸商業協同組合）

【販路開拓】（信楽陶器工業協同組合）

(海外)

「信楽坪庭」製品開発及び国内外にむけての販路開拓事業

○香港ハウスウェア・フェアに出展し、来場者29,000人。名刺7社、商談11件（目標：名刺30社、商談8社、成約3社）。海外での信楽焼のイメージ向上を図った。



香港での展示会の様子

(国内)

「信楽坪庭」製品開発及び国内外にむけての販路開拓事業

○ガーデンEXPOに出展し、来場者43,000人。名刺50社、商談20件（目標：名刺40社、商談10社、成約5社）。1件の成約（60万円/年）につなげることができた。

【販路開拓】（信楽陶器卸商業協同組合）

(国内)

テーブルウェアフェスティバル2018出展における開発製品の展示発表及び市場・販路開拓事業

○テーブルウェアフェスティバルに出展した。商談額を前年比で3%伸ばすことができた。



国内展示会の様子

⑦ 高島綿織物（高島綿織物工業協同組合）

【販路開拓】

（海外）

「高島ちぢみ」生地の需要調査

訪問先：マレーシア、香港、ベトナム

○契約件数は4件、700万円を見込んでいる。

（国内）

高島産地生地素材展の開催と「高島ちぢみ」「高島飄布（はんぷ）」の地域ブランドの価値向上と需要拡大のために、ピワタカシマ春夏素材展（東京・大阪）を開催した。



マレーシアでの商談の様子